

第5回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第1区（八甲田丸～フェリー埠頭；5.495 km 一般）

今年も昨年同様天候に恵まれ、正午の気温は25度近くまでになっている。今大会も選手の安全性を確保するためにスタート地点の選手の位置は、1列目と2列目は昨年の上位チームをシードし、その他のチームは抽選により配置した。

スタート後は、福地村の北山選手がレースを引っ張り、八戸市、六戸町、東北町、五戸町、三戸町がその後に続き、集団でレースが進みラスト300mあたりから、徐々に八戸市の赤間選手が2位以下を引き離し、そのまま2区にトップでタスキを渡した。

第2区（フェリー埠頭～旧聖徳公園前；3.2 km 中学男子）

東北町の山田選手がベイブリッジ中間地点過ぎでトップ集団に並びその後差を広げトップでタスキを渡す。2位以下は、三戸町、むつ市、六戸町が後に続いた。

トップでタスキを受けた八戸市はリズムに乗れず7位で3区にタスキを渡した。

なお、総合区間トップは、東北町の山田選手とむつ市の江村選手が同タイムで獲得した。

第3区（旧聖徳公園前～合浦公園；2.9 km 女子）

イチョウ、プラタナスと緑豊かな街路樹の続く中を合浦公園に向け、大鰐町の築館選手が7人抜きで区間新記録でトップ、17秒遅れて東北町が2位、その後は、六戸町、むつ市と続き例年の上位チームの顔触れが出揃う。市の部では、むつ市に次いで八戸市が2つ順位を上げて続いている。

町の部では、大鰐町、東北町、六戸町、三戸町が上位をキープしているが、大鰐町が台風の目となり、激戦の様相となっている。

村の部は福地村が総合7位、南郷村16位、六ヶ所村19位で続いている。

第4区（合浦公園～野内；4.0 km 一般）

声援の多い合浦公園でバトンタッチした大鰐町の植田選手は快調なラップを刻み5区へタスキを渡す。2位の東北町は逆に1秒離される。

3位以降は、むつ市、八戸市、六戸町、三戸町と続き青森市の奈良岡選手が区間新記録の快走で13位から7位に順位を上げた。

また、村の部の上位3チームは第3区と同じ順位で進んでいる。

残念ではあるが、野内中継所では、大会規定により先頭から10分以上の差となった8チームを繰り上げスタートさせた。前年と同数の繰り上げとなる。

第5区（野内～諏訪沢；5.3 km 一般）

田園左奥に新総合運動公園予定地を見ながら選手は走っている。疲れの見える大鰐町を東北町の中村選手が一気に抜き去った。

八戸市の佐々木選手はリズムに乗った走りで総合区間トップ、4位から2位に順位を上げ追い上げ態勢となる。1区23位の黒石市が7位まで順位を上げてきた。

村の部は、わずか20秒の中に福地村、南郷村、六ヶ所村の3チームが入っており、後半戦も激しい優勝争いが予想される。

第6区（諏訪沢～戸山団地；5.4 km 一般）

稲穂も黄金色に輝き始め、豊作を喜ぶかのように見つめる昭和大仏に見送られながら東北町の中山選手が区間新記録の走りで徐々に差を広げる。その東北町に遅れること51秒で八戸市、さらに40秒遅れで青森市が続く。

各チームは戸山団地イチョウ並木の続く最後の上り坂を走りぬき、中継所には上位3チームの後、大鰐町、むつ市、黒石市、六戸町の順でタスキを継いでいく。

村の部は、3チームの差が12秒に縮まり、六ヶ所村が今大会で初めてトップとなり、つづいて福地村、南郷村が続いている。

戸山団地中継所では、大会規定により先頭から15分以上の差となった11チームを繰り上げスタートさせたが、昨年と比較すると2チーム多くなった。

第7区（戸山団地～幸畑；3.7 km 女子）

7区戸山団地は、昭和53年頃から宅地造成が始まった団地であり、コースは比較的上りのきついコースである。女子にとってややきついこのコースに67人の女子ランナーが挑戦する。トップ東北町の甲田選手が順調な滑りだしを見せ、その後はどんどん差が開いている。2位の大鰐町とは55秒差となり、念願の総合1位が確実に近づいている。

市の部は、青森市と八戸市が競り合っていたが、弘前市の長南選手が総合区間トップを奪い、この3チームが、6秒差の中にひしめき合い残り3区間に優勝をかけることとなった。

村の部は、6区で六ヶ所村がやっとトップに立ったが、鈴木選手の大活躍で福地村に50秒、南郷村に1分48秒差となり、村の部優勝が近づいて来た。

第8区（幸畑～流通団地入り口；5.2 km 一般）

最もアップダウンの厳しい難しいコースである。東北町は、昨年この区間を走っている鳥谷部選手が懸命に中継所を目指し走っている。

2位には、総合区間トップの頑張りを見せた青森市沢田選手が大鰐町をかわし、市の部初優勝に近づいた。3位大鰐町、4位八戸市と続き八戸市の5連覇に赤信号が灯る。

流通団地中継所でも、大会規定により先頭から15分以上の差となった23チームを繰り上げスタートさせたが、昨年と比較すると6チーム少なくなった。

第9区（流通団地入り口～細越；3.2 km 40歳以上男子）

40歳以上男子の区間、その中で、東北町の澤居選手はダイナミックな走りで2位と44秒差でアンカーへ、2位青森市は3位大鰐町と41秒差、その後に八戸市、弘前市とつづく。なお、総合区間トップは三沢市の山田選手が獲得した。

第10区（細越～県陸上競技場；3.8 km 中学男子）

県小学生陸上競技記録会の行われている県総合運動公園陸上競技場に向かう。

9人の汗の染み込んだタスキを肩にかけ先頭の東北町の沼辺選手はそのままゴールに入り悲願の総合初優勝を果たし、駅伝の町として輝かしい1ページを飾る。

総合2位には青森市が入り市の部初優勝となる。3位には八戸市が大鰐町をかわして入った。

町の部2位は、総合順位4位の大鰐町が入り3位には、1・6・8区で健闘した五戸町が入った。

村の部は中盤まで熱戦を繰り広げた六ヶ所村が5年連続の優勝を果たした。2位には、堅実に走った南郷村、3位には5区までトップだった福地村が入った。

アンカーの総合区間トップは父定照さんからタスキを受け5人抜きの区間新記録を達成した中里町の伊藤選手が獲得した。